

〔川崎市福祉サービス第三者評価結果報告様式〕
(認可保育所版)

対象事業所名（定員）	ポピンズナーサリースクール武蔵小杉（60人）
経営主体（法人等）	株式会社ポピンズ
対象サービス	保育所
事業所住所	〒211-0063
事業所連絡先	川崎市中原区小杉町3-472 武蔵小杉東急スクエア5F
評価実施期間	平成 28年 9月～平成 29年 3月
評価機関名	株式会社 ケアシステムズ

評価実施シート (管理者層合議用)	評価実施期間 平成 28年 9月 23日～平成 28年 12月 10日
	(評価方法) ・園長・主任による合議により作成し、職員会議においても合議内容を確認している。
評価実施シート (職員用)	評価実施期間 平成 28年 9月 23日～平成 28年 10月 15日
	(評価方法) ・全職員を対象とした職員説明会を開催し、職職員一人ひとり員自己評価シートを配布した。質疑応答にも対応し分かりやすさに努めた。密封できる封筒を用意し、評価機関が直接回収した。
利用者調査	配付日) 平成 28年 10月 3日 ----- 回収日) 平成 28年 10月 25日
	(実施方法) ・全利用者55世帯に、保育園を通じて封筒に入れたアンケート用紙配付。園内設置の回収箱に投函を依頼した。保育園から評価機関が回収し、開封および集計作業を行った。回収率は772.7% (回収40世帯/配付55世帯)
評価調査者による 訪問調査	評価実施期間（実施日）/平成 28年 12月 27日
	(調査方法) ・2名の調査員が園を訪問し、現場観察・書類確認・職員の面接ヒアリング（園長ほかの職員）および子どもの観察を行った。

[総合評価]

<施設の概要・特徴>

運営主体は全国に保育施設などを中心とした子育て支援サービスを展開している株式会社である。ISO9001も取得するなど品質マネジメントを取り入れている。また、教育と保育の実践のために独自の手法で子どもの成長を支援している。外国の文化に触れる取り組みもっており知識や給食などを連動させている。当園は駅に隣接した大きな商業ビルの中にあり保護者のニーズも高い。定員は60名であり1フロアでの保育を行い、園庭も広いベランダを利用しているが安全な構造になっている。食育の取り組みとして幼児の昼食はバイキング形成で行い、主食や副菜なども自分で取り分けている。会社はIT化を推進しており記録など園の業務などもパソコンによるところが多い。また、連絡帳や園だよりのウェブ化や、保護者アンケートもウェブで実施するなど特徴的である。開設4年目であり若い職員が多く占め、今後が期待される園である。

[全体の評価講評]

<特によいと思う点>

「保育士が子どもの安全基地となる保育を目指す」という思いで保育の質の向上を目指している

開園4年目の若い園であるが、法人の他園の経験をマニュアルとして持ち込み一定の水準に達しており、カリキュラムなどにも細やかな配慮が見られる。訪問調査の際に「第一に子どもにとって良いのかを考え、子どもの安全基地に保育士がなることを目指す」ことを保育士の目標にして進めていきたいとしていた。保育をする中で子どもへの対応の統一された概念の存在は、大変重要なものである。園のスタッフの保育の取り組みの原点となることを期待したい。

職員を研修に派遣し受講後は伝達講習を行い組織全体の質向上に取り組んでいる

法人本社の研修体制が整備され、入社時の研修やフォローアップ研修等実施している。今年度は外部機関の年齢別の保育研修に職員を派遣したり、公立保育園の公開研修なども参加を予定している。そのほか、区や市の研修などについて情報提供を行い受講を勧めている。職員自己評価でも「研修に参加するよう促している」などの声も聞かれ、質向上の取り組みがうかがえる。

法人の方針であるエデュケア（教育プラス保育）に取り組む成果を挙げている

要支援児が保護者と園の相互連携の下に、支援センターや専門医のアドバイスを保育に取り入れることで成長を遂げ、要支援児対象外になる成長を見せた事例があるとのことである。相互の信頼関係が構築され、要支援児の保護者と連携をとりながら支援したことがうかがえる。子どもの成長を育んだ適切な環境の提供や保護者との連絡や連携、保育士のスキルアップのために研修に参加する向上心などは、法人の方針であるエデュケア（教育プラス保育）が表出された取り組みとして評価できる。

<さらなる改善が望まれる点>

園の機能や専門性を地域に還元することを期待したい

地域貢献を課題としており、できることを始めたいとしている。駅に隣接した商業ビル内の保育園であり住宅地ではないという制約もあるが、近くにはタワーマンションもあり子育て世代の存在もみえる。今年度は小学校見学なども行っているが、小学校との更なる交流や連携、地域の母子が来園できるような機会を図るなどの地域との交流を期待したい。

園独自の取り組みに期待したい

園内には法人主体のマニュアルや掲示などが多くみられ、法人としての統一された運営を目指していることがうかがえる。大きな柱として法人の意向が反映されることは園としてプラスへの働きとなるが、当園の地域性や保護者の意向、子どもの様子などそれぞれの園の特徴が生まれることも事実である。開園からの3年間で法人の方針を受け継ぎ築いてきた基盤の上に、これからはこの園独自の取り組みが生まれ刻まれることで、スタッフと子どもと保護者の輪が育まれることを期待したい。

保育環境をさらに整えることを検討されたい

ダイニングを中心に放射線状に保育室が位置しており、各クラスは低い棚で仕切られた開放感のある保育室となっている。扉のついたロッカーなどが個別に設けられ、白を基調にした大変清潔感のある保育室になっている。統一感のある保育室ではあるが、各部屋に子どもが自由に手にすることができる玩具が大変少ないことが憂慮される。視覚で子どもの創造性を促す環境、自分で遊びたいと思う玩具を手にすることができる環境、ごっこ遊びなどで情緒を促す環境などを提供する中で、子どもの自発性や社会性の成長が育まれることを提唱したい。

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 1 サービスマネジメントシステムの確立
<p>個人別の指導計画に反映させるために日々の子どもの姿に注力し、全クラスの日誌に個人別記入欄を設けて気づきを記録しており、それらの気づきは月末に行われるミーティングでスタッフ間で周知されている。期ごとに記録を残している個人別成長記録の児童票は、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）に分けて記入するなどの真摯な取り組みを行い、子どもの姿の記録を残すことに尽力している。また、これらの記録は全て子ども一人ひとりのファイルに綴じられ、記録の保管管理の仕様が明確にされている。</p> <p>園で起きた事故は「アクシデントレポート」に記録しスタッフで共有するだけに留めず、毎月「アクシデント分析表」を作成することで事故の再発を防ぐ手立てを探る工夫をしている。また、近隣の公園で注意が必要な場所を記したファイルがあり、初めてその公園に行くスタッフには是非一読を勧めたい優れたレポートとして評価したい。しかしながらヒヤリハットについては決まった書式がなく、毎月末のミーティングで報告をしているとのことで、大きなけがを防げる有効な仕組みとして、ヒヤリハットを迅速に周知する取り組みを期待したい。</p>

評価分類 (1) サービスの開始・終了時の対応が適切に行われている。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社法人によるホームページが開設されており、そのページから園のパンフレットも入手できるようになっている。 ・ パンフレットには園内の写真を載せているが、子どもを預ける保護者にとっては重要な情報と思われる、園の方針や理念などの園が目指す保育の内容についての掲載がないことは今後期待したい。 ・ 入園の際には事前に健康診断を受け、園長による面談を行い家庭の様子や就労状況などを聴き取っている。その際には重要事項説明書をもとに園の目標、1日の過ごし方、持ち物などの説明を行い、緊急時の対応やプライバシー保護に関する同意書を交わしている。 ・ 面談では集団生活の経験などを確認し、慣らし保育の際に子どもに負担がかからないように配慮している。保護者の仕事についての都合や配慮もしながらも、子どもの様子に注力することが大切なことを説明し、個別で1～2週間かけて慣らし保育を行っている。 ・ 卒園時には児童要録を作成し、就学する小学校に提出することで子どもの成長の支援を継続的に行えるように努めている。今年度より、卒園前に近隣の小学校に遊びに行くことを計画しており、卒園する子どもへの支援への試みとして評価したい。 	
評価項目	実施の可否
① 保護者等（利用希望者を含む）に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	○
② サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。	○
③ サービス利用開始後に、子どもの不安やストレスが軽減されるような支援を行っている。	○
④ 就学がスムーズに行われるよう、保育の方法や保護者とのかかわりに配慮されている。	○

評価分類 (2) 手順を定め、その手順に従ったアセスメントを行い、サービス実施計画を策定している。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本部作成の保育課程、年間指導計画に則り、月案、週案、2歳児クラス以下は個別のカリキュラムを立てている。年間指導計画については、地域性やその年の子どもの姿に寄り添った計画を求めて改めて策定する丁寧な対応をしている。 ・ 月末に月案の反省と評価、次月の月案下案を週末ミーティングや月末ミーティングで協議するというサイクルで、子どもの姿を指導計画に反映させるように配慮している。 ・ 指導計画は、ミーティングによって見直しがされていることを議事録で確認することができた。それらの過程を経て作成された指導計画は、施設長と主任によりチェックを行い、週案に関しては玄関に掲示をして周知に努めている。 	
評価項目	実施の可否
① 手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行っている。	○
② 指導計画を適正に策定している。	○
③ 状況に応じて指導計画の評価・見直しを行っている。	○

評価分類 (3) サービス実施の記録が適切に行われている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの記録は、児童票・健康記録・健康診断票・成長曲線・歯科検診記録・感染症罹患記録・個人別カリキュラムなどが、個人別に1冊のファイルの中に綴じられて保管されている。1冊のファイルに個別に保管されていることで、子どもの記録をスタッフ間で情報を共有し易いように配慮されている。 ・成長記録については、3～5歳児クラスについては、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）に分けて記入するなどの真摯な取り組みを行っている。 ・クラス日誌には子ども全員のその日の様子を個別に記入する欄が設けられ、子どもの様子を日誌に記録として残すことで保育の気づきを記録することを目指している。 ・子どもの記録についてのファイルは園外持ち出しは厳禁となっており、園内で施錠のできる棚に保管されている。 		
評価項目		実施の可否
①	子どもに関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	○
②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○
③	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している。	○

評価分類 (4) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。		B
<ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアルなど法人作成の各種のマニュアルが常置されている。 ・各マニュアルは実際の現場でスタッフの指標となっており、アレルギー対応のマニュアルなどについても、実際にそのマニュアルに従って日々の対応を行っているとの説明であった。 ・法人では専門家チームによるマニュアル改訂なども行われており、その際には現場の意見なども盛り込まれるなどの仕組みが機能しているとのことである。 ・法人全体で均一な対応を目指すことは大変重要なことではあると思われるが、アンケート結果には、「スタッフの対応に差がある」などの意見が散見されている。スタッフの保育力や保護者対応力に経験の差があるともとらえることができるが、マニュアルや当園としての対応を非常勤スタッフも含めて周知する機会を持つことで、統一された対応を目指すことも期待したい。 		
評価項目		実施の可否
①	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	○
②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	△

評価分類 (5) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や不審者対応訓練などを毎月行っているが、担当者をスタッフ全体で輪番にすることで、危機管理に対するスタッフの意識の向上を図っている。 ・散歩などで園外に出る際の取り組みとして、出かける公園について危険な場所などをチェックしてまとめたファイルを常置し、携帯電話を持参し、保育士に連絡係・不審者への対応係・全体を把握する係などの役割分担を経て出掛けるなどの配慮をしている。 ・事故については「アクシデントレポート」を記録し、毎月に「アクシデント分析表」を作成することで、事故の再発を防ぐための周知をしている。ただし、ヒヤリハットについては、月末及び週末に行われるミーティングでの口頭による共有に留まっている。 ・日頃から清掃や消毒などを行い、感染症胃腸炎などについても、嘔吐の際の対応や備品の場所についてはスタッフ間で周知している。 ・感染症が発生した際には、看護師から保護者へ掲示することで周知を促している。 ・当園はビルの5階にあり非常口以外では出入り口は玄関の1か所となっており、インターホンで確認後に開錠する安全対策を行っている。 		
評価項目		実施の可否
①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制が整備されている。	○
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	○
③	子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	○

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 2 人権の尊重
<p>子どもの人権尊重について園内研修を行い学ぶことで、子どもの気持ちをくみとり子どもに寄り添う保育を実現させることを目指している。子どもの声に耳を傾け、言葉の中にある子どもの気持ちにも配慮する中で子どもの成長を見守る保育を心がけている。身近な取り組みとして、おむつ替えや鼻を拭く際にも本人に声をかけるなどの細かな行為一つひとつの積み重ねを大切に、子どもが自分の気持ちを発露する機会をつくることで支援している。</p> <p>子どもの年齢に合わせて、羞恥心の育ちへの声かけを行い、着替えの際には視線を遮る配慮も心がける対応をしている。しかしながら園庭で行われている夏のプールの際に、視線を遮る目隠しなどをしていないことが憂慮される。近隣のビルとの距離があることも理解できるが、現在のネットなどによる情報拡散の脅威を鑑みて、プールに入る期間は、近隣のビルからの視線を考慮して窓の下部に目隠しをするなどの配慮も望みたい。</p>

評価分類 (1) サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重してい	A
<ul style="list-style-type: none"> ・食事や排せつなどの基本的な生活習慣を身につけるための関わりは、個別に一人ひとりの成長を見守りながら進めている。まだ興味を示さない場合には、友だちの様子に気付かせるなどの配慮をして発達を支援している。 ・スタッフは人権擁護などの研修に参加して虐待について学ぶ機会を図っている。 ・スタッフは、子どもを注意する際には口調に注意することなどを周知しているが、さらに、スタッフ間で指摘ができる体制づくりを整えたいとしている。 ・入園時に交わす重要事項説明書には虐待の疑いがある場合には関係機関に通報する旨が記述されている。 ・朝の登園時には視診を行い、子どもの様子と保護者からの家での様子を聴き取ることがを心がけ、子どもが着替えをする際には、身体にあざや傷などの有無を確認することで虐待の早期発見に努めている。 ・子どもが何気ない大人の振る舞いで怯える様子を見せた場合は園長に報告し、園全体で見守ることとしている。 ・虐待防止月間には園内にポスターを掲示して注意喚起を促している。 	
評価項目	実施の可否
① 日常の保育にあたっては、個人の意思を尊重している。	○
② 子どもを尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	○
③ 虐待の防止・早期発見のための取組を行っている。	○

評価分類 (2) 利用者のプライバシー保護を徹底している。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・入園の際に重要事項の説明を行うと共に、個人情報や写真の扱いについて保護者の同意なく外部に漏らすことはしないとして「秘密保持について」の項目をあげて同意書を交わしている。 ・名簿からの悪用を防ぐために名簿や連絡網を配布しないことを謳っている。 ・園での写真販売については、業者に委託し保護者が個別に契約を結び購入する形式を取り入れている。 ・園内の名前の表示も最低限の表示に配慮されている。 ・着替えの際などは全裸にならないように促したり、玄関や窓の近くなどのひと目がある場所では脱衣しないように声かけをして、ロールカーテンを下すなどの配慮をしている。 ・園庭に設置されたプールに入る際には、タオルを巻くなどの声かけをして子どもの羞恥心への配慮をしている。 	
評価項目	実施の可否
① 子どもや保護者に関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、利用者の同意を得るようにしている。	○
② 子どもの気持ちに配慮した支援を行っている。	○

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 3 意向の尊重と自律生活への支援に向けたサービス提供
園は今年度初めて第三者評価を受審したが、前年度から第三者評価で行う際の項目をチェックし、園内で自己評価を行うなどのサービス向上への前向きな姿勢を示している。その際には、「子どもへの環境設定や保護者との信頼関係の構築に努めながら安心して子育てができるように支援する」としてスタッフの共通理解を促している。これらの真摯な取り組みが、保育の中で子どもに反映されることを期待したい。
今回のアンケートで「外部の苦情窓口」の項目の周知が大変低くなっている。重要事項説明書にも苦情解決制度としてではなく、「家庭と園の連絡」という項目に記述されているために認識を難しくしているように思われる。園の姿勢を周知させるためにも、入園時の面接や懇談会などの機会に外部の苦情窓口があることを直接説明することを期待したい。また、園内に苦情解決制度についての掲示はあるが、保護者に見やすい場所への掲示が必要と思われる。

評価分類 (1) 利用者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年法人が顧客アンケートを実施しており、アンケートの結果分析を含めて保護者にフィードバックしている。 ・園内に意見箱を設置し、保護者からの意見を収集できる環境を整備している。 ・行事の際にアンケートを行ったことがあり、その結果はミーティングでスタッフに共有され、保護者に対してもフィードバックを実施したとのことである。 ・第三者評価を受ける前年度から、第三者評価の際に確認する評価項目をもとに自己評価を実施し、より良いサービスを提供できるように努めている。 ・給食の試食会を行うことで、保護者に園の給食を知ってもらう機会を提供している。 ・保育参観などを時期を決めず、いつでも受け付けることで参加しやすい環境を心がけている。 	
評価項目	実施の可否
① 利用者満足の把握に向けた仕組みを整備している。	○
② 利用者満足の向上に向けた仕組みを整備し、サービス向上に取り組んでいる。	○

評価分類 (2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談は保護者の希望でいつでも実施している。 ・第三者委員を置き苦情受付の窓口を設置しており、入園の際に園長より説明を行っている。苦情解決制度についての掲示を玄関に行っている。 ・保護者からの意見や要望は、登降園時に直接口頭で受ける場合や、連絡帳を通して寄せられることもある。 ・要望などが寄せられた際には園長に報告し、要望についてミーティングなどで話し合わせ方針を決め対応することになっている。 ・要望対応については、パートスタッフも出勤時に必ず目を通すことになっているスタッフノートに記入されており、周知できる仕組みになっている。 	
評価項目	実施の可否
① 子どもや保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	○
② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	○
③ 子どもや保護者からの意見等に対して迅速に対応している。	○

評価分類 (3) 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・自主性を育てる働きかけとして、法人の独自のエデュケアという手法で子どもの成長を支援しており、自主性を促す働きかけとして毎月策定しているカリキュラムを大切にしているとのことである。 ・幼児クラスで子ども同士のトラブルが発生した場合は、双方の子どもから話を聴き取ることにも努め、子ども自身で解決できるように声かけすることを心がけている。 ・保育士があまり関わり過ぎないことが子どもを成長させることにつながるとして、見守る姿勢で支援している。 ・朝や夕方には合同保育を行うことで、異年齢児保育を実施し、年齢の違う子どもとの触れ合いで多くの刺激を受けることで育ちあいを促している。 ・要支援児対象だった子が園での友だち関係を経験する中で、保護者と園との連携により要支援児対象外になる成長を見せた先進事例がある。 ・中野区発達相談支援コーディネーター研修に保育士が参加している。 		
評価項目		実施の可否
①	子ども一人ひとりを受容し、その発達の過程や生活環境などの理解を深めて働きかけや援助が行われている。	○
②	様々な人間関係や友達との協同的な体験ができ、生活が豊かになるような環境が整備されている。	○
③	子どもが主体的に活動し、自分を表現し、他者の表現を受け入れる力が育つように支援している。	○
④	特別の配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。	○

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 4 サービスの適切な実施
開園から4年目で、勤務年数や保育士の年齢も若いスタッフが多い現場である。ビルの5階という環境の下で稲を育て、おにぎり作りやわらで絞め飾り作りまでを実行し、その活動を写真を使って即日に視覚とコメントにより保護者にわかりやすい掲示をしたり、子どもの自由遊びの時間の職員の立ち位置や見守り方の指導を行うなどの、多くの保育への取り組みが行われている。現場で自然発生的に生まれる質の高い保育への向上心は、若い園だからこそ今後の保育の方向性を動かす力だと期待したい。
「世界の文化・日本の文化」を月に紹介し、世界や日本の遊びや食事などを保育の中に取り入れており、世界には多くの国があり、日本とは違う文化があることを身近に知ることができた機会となっている。実際に訪問時給食の献立も紹介された献立だと子どもから聞くこともできた。毎日の食事は子どもに刻まれていくものである。子どもとスタッフが一緒に喫食することで共有できる食事の楽しさや養護・教育面についての環境提供も再考する機会も望みたい。

評価分類 (1) 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・登園時は、担当のスタッフが子どもの視診とともに保護者から家庭での様子を聞き取っている。 ・担任と保護者がコミュニケーションを図る中で「保護者に園での様子を伝える」「家庭での様子を聴く」の繰り返しすることで連続した保育ができるとしている。そのため、できる限り担任が保護者に直接伝えることを目指している。 ・トイレトレーニングなどは個別で対応し、その子の成長に合わせることを心がけている。 ・時には園ではまだ本人の準備ができていない状態で進めたいという意向を保護者から受けることもあるが、子どもに合わせる大切であることを伝えることで子どもや保護者を支援している。 ・午睡は眠くない子どもは、横になり身体を休めることを勧めている。 ・年2回の懇談会や随時受け付けている保育参加などで、保護者の意見や要望の傾聴に努めている。 	
評価項目	実施の可否
① 登園時に家庭での子どもの様子を保護者に確認している。	○
② 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるよう支援を行っている。	○
③ 休息(昼寝も含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している。	○
④ お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている。	○
⑤ 保育所の保育に関して、保護者の考え方や提案を聴く機会を設けている。	○

評価分類 (2) 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・当園は駅ビルの上にあるという環境のためか、比較的広範囲から通う保護者が多く、入園児の6割強が延長保育を利用しているという状況にある。 ・多くの子どもたちが安全に遊べる環境を整えるために、乳児クラスと幼児クラスを分けて延長保育を行う丁寧な対応をしている。 ・18時から子どもの残る時間により補食と夕食をとっているが、その際にはアレルギーへの対応の必要のない食材を提供して誤食の危険を排除している。 ・延長保育の時間専用の保育士が毎日入り、毎日同じ保育士が担当することで、子どもたちに安心感を与える環境を提供している。 ・人数が少なくなると1クラスで0～5歳児までの合同保育になるが、その際には危険がないようにカードゲームなどの静かな遊びを提供したり、子ども同士や保育士とのスキンシップをとるなど日中とは異なるスキンシップがとれる落ち着いた環境を楽しめるように工夫している。 	
評価項目	実施の可否
① 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	○
② 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている。	○

評価分類 (3) 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・食事の前に「サンキューのうた」を歌い、感謝の気持ちをもつことを習慣付けている。 ・食器はすべて本物の陶器を使用することで感性を養う機会を設けている。 ・5歳児クラスは自分で盛り付けをしているが、自分が食べられる量を考える、友だちの盛り付けの分への配慮を知る、食べ物を大切に扱うなどの取り組みとなっている。 ・献立はアレルギー児対応食を含めて法人がたてている。 ・アレルギー児対応食の献立は調理した後、名前のついた色の違うトレーを使用して盛り付け、調理員と栄養士、担任のチェックの後、配膳されている。 ・今年度は4～5歳児クラスで米を稲から育て、収穫、おにぎり作り、わらでしめ飾り作りまでを食育として行い、その様子を当日写真で保護者に掲示する活動を行った。 ・0～1歳児クラスは季節の野菜に触れたり、乳児クラスはクッキーの型抜き、2～5歳児は年齢に応じた食事のマナーを学んでいる。 ・ダイニングには「多文化コーナー」として、世界の国々の文化や料理が毎月で紹介されており、世界の料理を給食で食べることで、食育と保育の連携を図っている。 ・3歳児クラスではフォークからお箸への移行を進めている。 		
評価項目		実施の可否
①	子どもが楽しく、落ち着いて食事を取れるような雰囲気作りに配慮している。	○
②	メニューや味付けなどに工夫をしている。	○
③	子どもの体調や文化の違いに応じた食事（アレルギー対応を含む）を提供している。	○
④	保育所の食事に関する取組を保護者に対して伝える活動をしている。	○

評価分類 (4) 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児クラスを対象に命について書かれている絵本を読み、友だちの心臓の音を聴くなどの機会を図り、命の大切さや命について考えることの大切さを伝えている。 ・健診の前には、保護者に園医に聞きたいことなどを聞き取り、園医に伝えるとともにフィードバックをしている。 ・健康診断・歯科検診などの結果は個人ファイルにまとめられ保存されている。また、健診の結果については随時保護者に配付しているとのことである。 ・看護師を中心に、感染症に関しては玄関に掲示し感染症についての啓蒙も行うなど随時保護者に情報提供をしている。 ・感染症については、マニュアルに従って嘔吐時などの対応に努めることが周知されている。 ・乳幼児突然死症候群（SIDS）チェックを0～1歳児は5分ごとに、2～5歳児は15分ごとに向きと呼吸の有無を身体を触って確認し記録に残している。 		
評価項目		実施の可否
①	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている。	○
②	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それぞれの保育に反映させている。	○
③	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 5 運営上の透明性の確保と継続性
職員主体の小集団活動に取り組んでおりミニキャラバンと称し、遊びや歌など自分の得意なことを他のクラスで発表している。クラスのカリキュラムに入れており職員が参考にするなど、園全体の保育の質向上につなげている。よい取り組みと思われる。
毎年、ウェブサイトを利用した保護者アンケートを実施している。結果は本社で集計され園にフィードバックされている。会議ではアンケートの傾向を見るとともに自由意見など話し合い、保護者に回答したり内容によっては改善に取り組んでいる。
事業計画や事業報告が策定され家族代表などが参加する運営委員会で説明している。事業計画の策定にあたっては職員の意見を求めたり反映させるなど、組織的に行うことが望まれる。また、事業計画は定期的な会議の場で取り組み状況を確認し、評価しながら推進することが期待される。

評価分類 (1) 事業所が目指していること(理念・基本方針)を明確化・周知している。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・法人経営理念やナーサリースクール(保育園)の目標が事業計画書や玄関に掲示されている。 ・職員には入社前研修やフォローアップ研修などで説明され、園ではミーティング時に唱和するなどしている。 ・理念や目標に基づいた保育実践はカリキュラムに落とし込んでいる。 ・目標は重要事項説明書の冒頭に記載し、懇談会などで保護者に伝えている。 	
評価項目	実施の可否
① 理念・基本方針を明示している。	○
② 理念・基本方針について、職員の理解が深まるような取組を行っている。	○
③ 理念・基本方針について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取組を行っている。	○

評価分類 (2) 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる。	B
<ul style="list-style-type: none"> ・法人の中長期計画が策定されている。 ・年度の事業計画や事業報告書が園長により策定されている。 ・年行事計画は園長が原案を作り全員で話し合っている。 ・行事計画は各係が策定し主任と園長が確認を行っている。 ・策定後の事業計画は職員への説明が不十分と思われる。 ・事業計画は家族代表が参加する運営委員会で説明している。 ・行事計画については、懇談会で保護者に説明している。 	
評価項目	実施の可否
① 理念・基本方針の実現に向けた中・長期計画が策定されている。	○
② 中・長期計画を踏まえた年度単位の事業計画が策定されている。	○
③ 事業計画の策定が組織的に行われている。	○
④ 事業計画が職員に周知されている。	●
⑤ 事業計画が保護者等に周知されている。	○

評価分類 (3) 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの全体会議で組織体制や園の課題を伝えるなど方向性を打ち出している。 ・毎週のリーダー会議や毎月の全体会議では園の案件など討議し決定したり周知に取り組んでいる。 ・人事評価面接も実施し職員一人ひとりの育成に取り組んでいる。 ・人材確保・育成も課題であり日々の声掛けなど大切にしている。 		
評価項目		実施の可否
①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	○
②	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	○
③	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	○

評価分類 (4) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、保護者アンケートを実施し傾向を見るとともに自由意見の内容など話し合っている。 ・園運営に関する業務分担を明示し年度初めに確認している。 ・リーダー層が参加する会議が意思決定会議となっている。 ・リーダー会議では園の課題など話し合っている。 ・非常勤職員ともノートを用い情報共有を図っている 		
評価項目		実施の可否
①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	○
②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	○

評価分類 (5) 経営環境の変化等に適切に対応している。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・本社の会議や自治体の園長会議などで事業環境などの情報が得られている。 ・本社の担当部門より保育行政など最新の情報が流れてくる。 ・外部監査などで助言など受けている。 		
評価項目		実施の可否
①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	○
②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 6 地域との交流・連携
ボランティア受け入れマニュアルが整備され、中高生を中心としたボランティアを受け入れている。窓口は園長であり「しおり」をもとに注意事項などを説明し、誓約書を取り交わしている。今年には中高校生の職業体験のほか高校生のボランティアを受け入れている。
地域交流を課題としており次年度からの実践を視野に入れている。「駅ナカ保育園」であり制約もあるが、子育て世帯の子どもの身体測定や、運動会場を借りている学校の見学など、できることから始めたいとしている。立地条件を活かした地域交流など、今後の取り組みに期待したい。
当園がある地域は急速に子育て世代の住民が増え多くの保育園が開園しており、施設同士で情報を共有し、連携を図ることも必要な環境と思われる。しかしながら、他の園との横のつながりを育む機会が設けられていないとのことであった。区の取り組みとして情報共有や課題の表出の機会を図れる仕組み作りを期待したい。

評価分類 (1) 地域との関係が適切に確保されている。	B
<ul style="list-style-type: none"> ・市や区のホームページなどでの情報公開や見学者に園の説明やパンフレットを配布している。 ・地域への情報発信が不十分と思われる。 ・地域の子育て世帯への支援は実施していない。 ・ボランティア受け入れマニュアルが整備されている。 ・園長が窓口となり中高校生の職業体験などで受け入れている。 ・ボランティアにはガイドブックをもとに注意事項など伝えている。 	
評価項目	実施の可否
① 地域社会に対して、開かれた組織となるよう、事業所に関する情報を開示している。	●
② 事業者が有する機能を地域に提供している。	●
③ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	○

評価分類 (2) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	B
<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所園長会や幼保小園長校長会議に参加している。また、民生児童委員との話し合いを持ったこともある。 ・地域の関係機関や団体と共通課題を話す機会がない。 ・子育て支援連携会議に出席し地域の子育て環境など情報を得ている。 	
評価項目	実施の可否
① 関係機関・団体との定期的な連絡会等に参画している。	○
② 地域の関係機関・団体の共通の課題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	●
③ 地域の福祉ニーズを把握するため事業・活動に参加している。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 7 職員の資質の向上の促進
<p>園では法人本社の研修のほか区や市の研修、外部機関の研修などの年間研修計画を策定し職員を派遣して資質の向上に取り組んでいる。研修受講後は伝達講習で共有を図っている。また、今年は公立園の公開保育も参加予定である。救命救急の講習も受けるなど多様な研修で職員の知識やスキルの向上に取り組んでいる。</p> <p>法人本社の研修体制が整備され、内定前研修やフォローアップ研修など実施している。新人職員への研修は体系化されているが、現任職員に対しても年次別や職種別の研修体制の整備が望まれる。また、園内研修も職員の希望を取り入れ、知識やスキルの教育などをベテラン職員や専門職が行うこともよいと思われる。</p> <p>昨年は職員の離職も多く保護者の不安につながっている。若い職員が多い職場であり、悩みなど何でもいつでも相談できる職場風土を作ることや、業務の通じて達成感をもてるような取り組みが期待される。なお、実践している小集団活動などはよい取り組みと思われる。職員が主体的に活動できる取り組みを更に期待したい。</p>

評価分類 (1) 事業者が目指しているサービスを実現するための人材構成となるよう取り組んでいる。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・法人本社の人事方針が明示されている。 ・人材の確保は本社の担当部門が実施しており現在は充足している。 ・入社時には、内定者研修やフォローアップ研修などで、職員として遵守すべきことを学んでいる。 ・人権擁護や個人情報保護研修などの研修に職員を派遣し、受講後はミーティングで共有している。 ・人事考課制度があり自己評価をもとにした面談などで職員の育成を図っている。 ・実習生を受け入れ次代を担う人材育成に責任を果たしている。 	
評価項目	実施の可否
① 必要な人材や人員体制に関する具体的な考え方が確立している。	○
② 具体的なプランに基づく人材の確保に取り組んでいる。	○
③ 遵守すべき法令・規範・倫理等を正しく理解するための取組を行っている。	○
④ 職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格など）が連動した人材マネジメントを行っている。	○
⑤ 実習生の受入れと育成が積極的に行われている。	○

評価分類 (2) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	A
<ul style="list-style-type: none"> ・職位ごとの行動指標が明示されている。 ・評価シートがあり個別の面談で内容や取り組みを確認している ・年間研修計画を策定し派遣する職員を明確にしている。 ・外部研修の情報を提供し受講を勧めている。 ・研修受講後はレポートとともにミーティング時に発表してもらっている。 ・研修受講後は研修の効果を3か月後に園長が評価している。 	
評価項目	実施の可否
① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	○
② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	○
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	○

評価分類 (3) 職員の就業状況に配慮がなされている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤怠システムがあり残業時間や有給休暇の取得状況は把握できている。 ・ シフトなどはできるだけ希望を尊重している。 ・ 定期的な個人面談を実施しており、心身の状態を聴いたり相談に乗っている。 ・ 法人本社では産業医による面談の機会が設けられている。 ・ 永年勤続表彰や海外研修制度などの福利厚生がある。また、親睦会などでコミュニケーションを深めている 		
評価項目		実施の可否
①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	○
②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	○